

交通安全意識の向上を図る



占冠村交通安全協会主催の「交通安全パークゴルフ大会」が、9月30日（日）に占冠村運動公園パークゴルフ場で開催されました。

大会には、21人が参加し、飲酒運転事故や高齢者の交通事故など交通安全に対する理解を深めました。成績は次とおりです。

【男子】	【女子】
優勝 千葉 忠司	優勝 平岡 八重子
2位 小林 喬	2位 前井 法子
3位 蓮井 寛	3位 丸瀬 洋子

交通安全活動を称えて



永年、地域の交通安全の推進、交通事故防止に尽力されたことが認められ、交通安全指導員の猪股俊幸さん（字中央）、武田好子さん（字中央）、針谷由美子さん（字上トマム）の3名に北海道上川総合振興局長感謝状が贈呈されました。

9月21日、上川合同庁舎で開催された「秋の全国交通安全運動総決起集会」の会場において、猪股俊幸さんが代表して、交通安全指導員として日々の活動に敬意を表する感謝状の贈呈を受けました。

ヒグマの生息実態を学ぶ『ヒグマ教室』を開催



10月3日、トマム学校の児童生徒を対象に、地域のヒグマの生息実態と、ヒグマ事故の予防について学ぶ授業が行われました。これは子供たちの生活圏の近くでヒグマが日常的に生息する上トマムの実情に鑑み、子供たちの知識や技能を高めて危険回避を図ることが目的です。

当日は全校児童生徒5名と学校職員等9名が参加し、村の野生鳥獣専門員が講師を務めました。

この授業では、まず上トマムで調べられたヒグマの生息情報を、子供たちの自宅や学校の位置と見比べながら学びました。次いで事故の類別と対処法を学び、実際に練習もしてみました。最後に、ヒグマの生息域で人が活動する意義を考えて締めくくりました。子供たちは高い関心をもって授業に取り組んでいました。

短い秋を楽しみました



10月14日（日）、村の秋の味覚を楽しむ『第38回占冠村紅葉まつり』が、占冠村農村公園で開催されました。

会場には、原木なめこ汁、鹿肉ロースト、ゆでとうきび、占冠産野菜などが用意され、来場者は秋の味覚を堪能しました。

しむかっぴーと〇×ゲームでは『しむかっぴーは今年で何歳？』『トマム山の標高は何メートル？』『村の木・花は何？』というローカルな問題に皆さん悪戦苦闘。

子どもからお年寄りまで大いに盛り上がり、村の短い秋を存分に満喫していました。



占冠中央小学校学芸会



9月30日（日）、「占冠中央小学校学芸会」が、占冠中央小学校で開催されました。

1・2年生の劇で披露されたのは『おおきなかぶ』。1年生の国語で学習する「おおきなかぶ」は、かぶが抜けたところで終わりますが、かぶが抜けた後、みんなで料理して、食べるシーンを付け加えるアレンジをしました。

歌と踊りが大好きな3・4年生はミュージカルに挑戦。3・4年生は、音楽に合わせて大きく身体を動かし、表現することの楽しさを学ぶキャリア教育プログラム『踊育（ダンイク）』を受けており、アレンジした占冠音頭を劇に取り入れていました。

5・6年生は、“差別”について考え、『アドハルムの魔女』を演じました。テーマは「人は差別をせずに生きていけるのか」。児童の堂々とした演技に、来場者から拍手が送られました。

私だけのおひつじさん



10月20日（土）、羊毛クラフト体験が、地域おこし協力隊の有光隊員を講師に占冠中央小学校で開催されました。体験には、親子8組合計20名が参加し、参加者は羊毛で形を整えた羊のクラフトをつくりました。

『お母さん、こうした方が可愛いよ。』と、時にはお子さんの方から親御さんにアドバイス。作製過程で、様々な形に変化する様子を参加者は楽しみ、個性的な羊のクラフトが出来上がりました。完成したクラフトは、11月に開催の占冠村総合文化祭に出展される予定です。

冬を迎える準備が完了しました



10月4日（木）、トナム地区に植えられたサクラの木を、雪による害から守るための作業が、占冠村「森林人林業グループ（会長 会田静雄氏）」により行われました。

森林人林業グループは、村内外の森林所有者で山づくりに特に興味のある人たちのグループで、毎年、国有林や村有林の枝打ちや下刈りなどの山づくりをボランティアで実施しています。

サクラは、平成27年5月にトナム小学校の開校100年記念事業として植えられたもので、幼木のため降雪による曲りや幹折れなどの被害から守ることを目的に、鳥居型の支柱を設置しました。当日は、森林人林業グループから男女合わせて12名が参加し、約20本のサクラの木の冬を迎える準備を整えました。